

## 目次

序章	2
第1章 現代陶芸の主な流れ（戦後以降の日本を中心として）	4
(1) 1946年～1950年代 前衛陶芸草創期	5
(2) 60年代 70年代の展開	9
(3) 80年代 クレイワークからポストモダンへ	12
(4) 今日の現代陶芸が抱える課題	13
第2章 現代陶芸におけるうつわの可能性	16
(1) うつわへの新たな視線	16
(2) パロディのうつわ - アメリカ現代陶芸のポストモダン	17
(3) 原始にみるうつわの神秘性	18
(4) やきものとうつわの親和性	21
第3章 作品『Lattice receptacle - 01』 - 格子構造による造形表現	24
(1) やきものの素材 - 陶器と磁器	
陶器の特徴	25
磁器の特徴	26
磁器素材の選択	26
(2) 自身のこれまでの試み（1997年～1999年）	27
収縮と変形	28
自作の根本的な見直し	30
(3) 作品『Lattice receptacle - 01』	31
泥漿鑄込み成形	31
素地への配慮	32
鑄込み成形による造形表現の展開	32
鑄込み成形による構造体	34
格子構造による造形表現	35
参考資料 作品『Lattice receptacle - 01』制作プロセス	38
第4章 光の受容器	40
(1) 光と影	40
(2) フォトニック・フラクタル	41
(3) 光のうつわへの展開	43
(4) 自作の展開（2004年～2005年）	45
『Lattice receptacle - 04』	45
『Lattice receptacle 05-A』	46
『Lattice receptacle 05-B』	46
『Lattice receptacle 05-C』	47
終章にかえて	49
図版	50
参考文献	63